

第3回市民まちづくり会議の結果

住まいと暮らし(住環境・防災・防犯・コミュニティ)

資料-2

第1回市民まちづくり会議まとめ			第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)		第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)							
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	出された意見	役割分担			実施時期			
						市民	行政	民間	短期	中期	長期	
防災	自然災害が比較的少ない地理的条件である。一方で、河川や用水が多く、水害のリスクがある。	水害や地震、火災に対して、より強いまちづくりが必要。	災害に強いまちのあり方を検討する。	水害に備えるための河川改修	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー堤防ではないが、今より高規格な堤防の整備は行われる方針 ・長期の水害対策の検討 ・農業用水路の堰管理 ・防災倉庫のスペース確保 ・既存のスペースを活用する場合と新規につくる場合がある ・人が集まる所につくる ・広場(空地)に山を作っておけば防災面にも役立つ ・市役所、学校は耐震化中 ・定期的に実施する 							
			水害対策を充実させる。	水害時に活用できる水路の整備								
			治水を伴った公園の整備	市街地におけるオープンスペースの確保								
			市街地の延焼を防ぐための空間を確保する。	防災体制の見直しや災害時の体制を強化する。		避難所の安全対策(施設の耐震化等)の強化						
				防災体制(コミュニティ・インフラ整備)の見直し								
				水害ハザードマップの見直し								
				地震・水害・火災別の防災訓練の実施								
				老朽建築物の耐震化								
生活環境	地域によっては買い物や交通の利便性が低いところがある。生活道路内への通過交通が増えると騒音などの問題が生じる。	利便性と生活環境の改善とのバランスのとれたまちづくりが必要。 ↑ 関連 ↓	住宅地の安全性を確保するための道路整備を進める。	良好な住宅地を活かす生活道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の通りやすい道 ・歩行者優先の道にする ・通学路を安心して通れる道へ、モデル的に専用道路にしてしまう ・生活道路は樹木や舗装で雰囲気を変える 							
住環境	宅地開発に伴い、宅地の細分化等が進んでいる。	良好な住宅地を保全するための取り組みが必要。	良好な住環境を保全・維持するためのルールをつくる。	建築協定や地区計画の整備推進								
				行田市にふさわしい敷地面積の設定								
				宅地開発における公園整備のあり方の検討	緑地化の推進							
			防災性を考慮した安全な住宅地をつくる。	ブロック塀を生け垣にするなどのルールづくり								
				生け垣化に対する補助制度の整備								

色の枠の項目は別分野(防災・防犯・緑・公園)にリンクする項目

第3回市民まちづくり会議の結果

第1回市民まちづくり会議まとめ		第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)			第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)							
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	出された意見	役割分担			実施時期			
						市民	行政	民間	短期	中期	長期	
緑公園	地域の公園は、あまり使われていない。 地域の公園は、管理上の問題がある。	地域の公園のあり方や維持管理について、リニューアルなどを含めた見直しが必要。 ↑ 関連 ↓	屋敷林などのまとまった緑を保全・活用する。	屋敷林の公園化(オープンガーデンなど)	・オープンガーデンをつくる際に、借り上げ、または買い上げる。 ・権利・所有の問題							
			公園や街路樹の維持管理のあり方を見直す。	公園や街路樹のオーナー制の導入 農協の空き地の活用								
美化	公園の除草作業がきちんと行われている。 市有地の空地や緑道等の維持管理が十分にされていない。	気持ちよく暮らせるために、美化活動や維持管理の取り組み、体制整備が必要。 ↑ 関連 ↓	地域が主体となったクリーン活動を継続する。	自治会や小学校におけるクリーン活動の継続								
コミュニティ	過疎化が進んでいる地区がある。	高齢化に向けた、地域で支え合うコミュニティの維持に向けた取り組みが必要。 ↑ 関連 ↓	地域で気軽に集まれる場所の整備・充実を図る。	コミュニティ施設の整備(自治会館の機能充実) 小学校の有効活用 既存施設の再編成(公民館、地域文化センター、自治会館)	・いざというとき寝泊まりができると良い ・既存施設の管理の一本化 ・現在、自治会館の所有の仕方は、それぞれ異なっている ・元気な高齢者の活用							
			市民活動を活性化する。	ボランティア・NPO団体の一本化 まちづくりに関する相談窓口の充実								
防犯	市民による防犯パトロールが行われている。 防犯灯が明るすぎて、星空が見えなくなっている。	より犯罪が起こりにくいまちにするための取り組みや設備のあり方の検討が必要。	防犯灯の整備・充実を図る。	全地域での防犯灯の整備								
				足元を照らすタイプの防犯灯の導入の検討								

色の枠の項目は別分野(防災・防犯・緑・公園)にリンクする項目

第3回市民まちづくり会議の結果

暮らしを支える(道路・公共交通・下水道・情報インフラ)

第1回市民まちづくり会議まとめ		第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)		第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)							
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	役割分担			実施時期			
					出された意見	市民	行政	民間	短期	中期	長期
道路	<p>主要道路で、歩道が整備されていない箇所がある。 歩道に段差やスロープが多い、また、歩道の幅員が狭い、歩行者と自転車安心して利用できない。</p>	<p>歩行者や自転車利用者が、気持ちよく安心して道路を利用できるまちづくりが必要。</p>	<p>歩いて暮らせるまちづくりを推進する。</p>	歩行者空間の確保	<p>みなし歩道化(狭あい路線におけるグリーン舗装等)の推進 主要道路の街路樹を一部伐採して歩行者スペースを確保する 通行規制(一方通行等)による歩行者空間の充実 国道125号バイパスの側道を歩行者専用にする</p>						
				<p>色々の枠の項目は同時並行的に行う必要がある項目</p>							
				<p>目的地を意識した、つながりのある歩道の整備 自転車専用道路(レーン)の整備</p>							
				<p>生活専用道路(車両通行規制)の区域指定</p>							
				<p>歩きたくなる、人に優しいまちづくりを推進する。</p>							
			歩道のバリアフリー化及びユニバーサルデザインによる歩道の整備								
			歩道幅員の拡幅								
			国道125号など市内中心部を走る大型車両の抑制								
			国道125号の管理の市への移管								
			信号点滅時間の見直し								
	<p>道路整備に伴い、歩行者が行き来しにくい箇所が生じ、地域が分断された。 道路アクセスの向上により既存市街地の買い物客が減少した。</p>	<p>道路整備に伴う周辺地域への配慮(地域分断、活性化対策)が必要。</p>	<p>道路拡幅・新設による住環境への影響を考慮しながら計画を推進する。</p>	<p>既存道路と新設道路の整備のあり方の検討</p>	<p>・既存道路...市民の声を取り入れながら整備を継続する ・新設道路...南北道路以外の新設は不要</p>						
		<p>魅力的な幹線沿道の整備を行う。</p>	<p>国道125号バイパス沿道の道の駅設置の検討</p>								
	<p>高速道路へのアクセス利便性が十分でない。</p>	<p>広域的な交通利便性を向上させるための道路計画が必要。</p>	<p>南北方向道路を充実させる。</p>	<p>南北方向道路(都市計画道路常盤通佐間線、行田市停車場酒巻線バイパス)の整備</p>	<p>・生活道路機能に考慮して計画を進める</p>						
			<p>案内板等の整備により利用者の利便性を向上させる。</p>	<p>利用者に伝わる道路案内板の工夫・見直し</p>							
	<p>道路や街路樹の整備・維持管理が十分にされていない箇所がある。</p>	<p>道路や街路樹について、適切な維持管理が必要。</p>	<p>市民と一体となった「みちをまもる」ための仕組みづくりを進める。</p>	<p>道路照明灯の整備充実 街路樹や歩道の維持管理の仕組みづくり</p>							

第3回市民まちづくり会議の結果

第1回市民まちづくり会議まとめ		第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)			第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)								
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	出された意見	役割分担			実施時期				
						市民	行政	民間	短期	中期	長期		
公共交通	市内循環バスは、観光利用しやすい設定がされている。 市内循環バスの利用率が低い。	地域住民の利便性を高めるとともに、多くの人に利用されるバス運行のあり方の検討が必要。	バス路線の利便性を高める。	JR行田駅へのバス運行の強化	色枠の項目は同時並行的に行う必要がある項目								
	JR行田駅よりも吹上駅の方が、市民に多く利用されている。 秩父鉄道の運行本数が少ない。	交流人口の増加に向けた鉄道利便性の向上が必要。	高齢者や観光客に配慮した市内循環バスのルート設定を検討する。	市民のニーズに沿ったデマンド交通の検討 観光客向けルートの充実									
インフラ	上水道が使いやすい。忍川や酒巻導水路などの河川では、生活排水の流入や渇水期の水流減のために、臭うことがある。 都市ガスが利用出来ない地区がある。	地域住民が快適に暮らせるための上下水道や都市ガスの整備・充実が必要。	河川環境を保全する。	河川改修、整備の推進									
			上下水道施設の耐震化を推進する。	濁水期通水による河川の浄化									
			下水道整備を推進し、下水道普及率を向上させる。	上下水道施設の耐震化									
			都市ガス網の充実を図る。	下水道普及率・水洗化率の向上 水洗化率向上のための普及啓発									
市民参加	市民の意見を踏まえたまちづくりを進めて欲しい。	市民の意見を踏まえたまちづくりを進めるための体制や仕組みづくりが必要。	市民参加を広げるためのPRを行う。	都市ガス網充実に向けた事業者への働きかけ	市から市民や外部への情報発信の充実								
			市民活動グループと連携したまちづくりを進める。	広報誌等を活用した、幅広い世代への市民参加の意識向上									
			市民の声を聞く体制づくりを進める。	自治会・企業等へのPRと協力依頼									
				市民活動グループとの連携	ロードサポート・里親制度等の団体への協力								
				市民意識調査の活用									

第3回市民まちづくり会議の結果

魅力を高める(自然環境、景観、歴史・文化、レクリエーション)

第1回市民まちづくり会議まとめ			第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)		第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)							
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	出された意見	役割分担			実施時期			
						市民	行政	民間	短期	中期	長期	
地域資源	自然の風景から歴史的な資源まで、様々な地域資源が点在している。一部には、維持管理や整備が必要な地域資源がある。	多様な地域資源を、適切に維持管理しながら、活用していくことが必要。	自然環境を保全・活用する。	ビオトープの整備	(市民)計画づくりや維持管理への参加 (行政)土地の取得 ・まちづくり推進課事業を引き続き推進。 (市民)事業への参加 ・地域のことをよく知っている住民がやるべき。 ・組織づくりが必要。 (市民)行政への要請と情報提供、地域のチェック機能を担う。							
				公園等に苗木を植えることによる森づくりの推進								
			歴史資源を掘り起こし、保全する。	歴史資源の掘り起こし								
			地域資源の保全手法を検討する。 維持管理に、ボランティアを活用する。	買い上げを含めた保全・活用方法の検討 ボランティアによる地域資源の維持管理の仕組みづくり								
道路	点在している地域資源を歩いて楽しめる散策道がない。	地域資源をつなぐネットワークの整備が必要。 ↑ 関連 ↓	地域資源をつなぐルートを設定する。	地域資源をつなぐルートの設定(市民と行政による検討委員会による検討)	・市民・行政による検討委員会を立ち上げ、検討する。 ・ルート検討とあわせて委員会で検討する。 ・案内板設置の際には事業者に協力をお願いする。 ・案内板やマップなどに、関連分野の企業の広告を入れる(事業者の収入につながる) ・クーポン券をつける。 ・企業からの出資(地域貢献)を募る。							
			地域資源の案内板を充実させる。	地域資源をつなぐルートへの案内板の設置(案内板への企業広告、企業からの出資を募る)								
道路	レンタサイクルやサイクリングロードの整備が進んでいるが、一部、自転車道が繋がっていない。	平坦な地形を生かした、自転車で回れるまちづくりの推進が必要。 ↑ 関連 ↓	自転車で回れるまちづくりに向けた環境整備を進める。	自転車道の整備(マナー教育も必要)	・市街地と市内全域で、それぞれあり方の整理が必要。 ・計画づくりは地域資源をつなぐルートの検討委員会で検討する。 ・マナー教育も必要(レンタサイクル利用者や子ども対象) ・現在の事業の継続、充実。 ・有料化することで大切に扱われる。							
				利用しやすいレンタサイクルの充実(有料化)								

第3回市民まちづくり会議の結果

		第1回市民まちづくり会議まとめ		第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)		第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)						
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	役割分担			実施時期				
					出された意見	市民	行政	民間	短期	中期	長期	
公共交通	観光資源を利用するための公共交通が整備されていない。	市民や観光客が地域資源を気軽に回れるような公共交通の充実が必要。	観光客にとって利用しやすい交通手段を整備する。	地域資源(観光拠点)をまわる循環バスの充実	・循環バスは時間がかかるので、シャトルバスが良い。 ・ルートについての意見は市民から聞く。 ・現在の事業の継続、充実。 ・実施したアンケートを生かす。 ・市内循環バスの夜間運行。 ・民間ルートとの調整など協力が必要。							
				利用状況に応じた市内循環バスの運行								
情報発信	地域資源の場所や地域資源に関する情報を伝える手段が充実していない。	地域資源に関する情報が、必要としている人に的確に伝えられるような情報発信の工夫が必要。	情報発信の体制づくりや既存の発信手法を見直し、改善する。 市民一人ひとりが、行田市の宣伝ができるようにする。	観光情報の一元化	・地図の一元化やサイズの統一 ・市と商工会議所との連携 ・情報発信の工夫と関連する情報の整理 ・有料のパンフレットの作成(読んでもらえる、売れるものをつくる。) ・若い人が読むようにマンガ化する。							
				ホームページのわかりやすさと利便性の向上 市民がまちについて学ぶ機会の充実								
レクリエーション	人が集まり、楽しめる魅力的な公園、広場、緑道等が少ない。	市民が楽しめる公園や緑道、サイクリングコース等の整備が必要。	公園・緑道等を気持ちよく利用できるように維持管理する。	水城公園や忍川等の河川の水質の浄化	・水をきれいに! ・年間通水と下水道整備 ・県と連携して、計画を推進する。							
			資源(拠点)を結び、アクセスをわかりやすくする。	主要な拠点を結ぶ緑道の整備								
	市民が身近でスポーツに親しめる環境を整える。	地域資源を結ぶサイクリングコースの整備	・焼却場の熱利用による温水プールの整備 ・市民や事業者の協力により場所を確保する。 (市民)一般家庭のトイレ開放など(事業者)商店街でのお茶だし(来訪客への声かけ)やコンビニ・商店のトイレ利用	身近なスポーツ施設の充実								
	市民や観光客がホッとできる場を整備する。	休憩スペースの確保(市民や事業者によるトイレ・休憩場所の提供)										
街中にベンチやトイレなどが少なく、ゆっくりと過ごすことが出来ない。	市民や観光客が街中でゆっくりと過ごすことができるスペースの充実が必要。	行田らしさを生かしたおもてなしをできる環境を整える。	郷土料理を提供する場の整備	・既存の施設を活用して、観光の拠点を整備する。 ・おもてなし隊の活用 (市民)ボランティアによる運営や店番等 (行政)行政による経営支援(資金) (民間)出店								
			風車エネルギーを活かした喫茶スペース等の創出の検討	・既存の風車の活用検討								

第3回市民まちづくり会議の結果

賑わいをつくる(中心市街地と駅周辺、産業振興、観光)

低コストで取りかかりやすいものを短期、ハード整備は中期、長期に時間がかかる難しいもの(商店特区、JR駅の計画・開発)は、取り掛かりを早めにする。

第1回市民まちづくり会議まとめ			第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)		第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)									
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	出された意見	役割分担			実施時期					
						市民	行政	民間	短期	中期	長期			
中心部	市街地の商店街は活気がなくなっている。(シャッター通りになっている。) 商店街の衰退により、雇用の減少、経済不振などの影響がある。 まち歩きをした。個人商店にはずばらしいヒト・モノ、こだわりがある。これらは生き残ったお店。実は「商店」には元気がある(商店街)いい物を紹介したいがPRする場がない	市中心部の位置づけやあり方についての検討が必要。 ↑ 関連 市街地の商店街のシャッター通りを解消し、活気や賑わいを取り戻すための取り組みが必要。	高齢者にやさしい商店街など、商店街の差別化による活性化を図る。	商店街の個性化、差別化の推進 高齢者向けサービスの充実(例えば高齢者の荷物を運ぶ「御用聞き」スタイルのサービス) 市内ウォーキング企画による商店街の活性化	・そもそも中心部は必要なのか? ・商店街再生は難しい。単純ではない。時間をかけないとできない。									
			商店街の再編・集約を図る。	空き店舗の再編による専門店ゾーンの形成 経営意欲のある店舗の集約化・テナント誘致										
			人が集まる場所を創出する。	繁華街の整備、空き店舗を活用した休憩所 観光物産店の整備										
			商店街のPRを推進する。	体験できる施設(藍染・勾玉)のPR強化 魅力ある参加型イベントの実施 JRや関係機関との連携によるPR強化										
				税の減免など 法律の整備等に時間はかかる ・まちに驚きを!										
JR行田駅	JR行田駅周辺の開発がされておらず、商業施設などの集積が見られない。 JR行田駅へのアクセスが悪く、利用しにくい。	JR行田駅周辺の開発推進による拠点づくりが必要。 ↑ 関連 市内からJR行田駅へのアクセスの改善が必要。	個別計画に基づき、戦略的に開発を推進する。	計画的・戦略的・具体的な開発推進										
			人口流出に歯止めをかけるための施策を充実する。	子育て施設・保育園の整備 バス路線や鉄道ダイヤの見直し 規制緩和によるマンション開発の誘導など、人を住まわせる施策の充実	・ここに住むメリットがないと人は住まない ・「待機児童なし」を目標に									
教育			人を呼び込むために、教育に関して県下一のまちを目指す。	幼稚園・保育園、小中高の教育環境の充実										

色の枠の項目は役割分担や実施時期は未検討。(重点的な取り組みのみ検討)

第3回市民まちづくり会議の結果

第1回市民まちづくり会議まとめ		第3回市民まちづくり会議結果(1枚目横造紙)			第3回市民まちづくり会議結果(2枚目横造紙)									
分野	現状	課題	まちづくりの方向性	取り組みアイデア(方策)	出された意見	役割分担			実施時期					
						市民	行政	民間	短期	中期	長期			
観光	たくさんの観光資源があるが、活用されていない。 行田ならではの食べ物や特産物がない。	多様な観光資源の活用や行田ブランドの創出など、多くの人を訪れるまちにするための取り組みが必要。	観光客の目線から、観光施策を見直し、必要な取組みを講じる。	観光サインやマップの統一、見やすい観光案内標識づくり 132ヶ所の神社仏閣の説明板の充実 格安観光、タクシー代行車の活用										
	首都圏を消費地に抱えており、農業は貴重な産業の一つとなっている。 行田市の農業に関するPRが少ない。	農業や農産物を産業振興だけでなく、観光資源として活用していくことが必要。	行田ブランドを創出する。	新たな行田ブランド(食べ物)のアイデア募集 地産地消による飲食店の展開 貸し農園、家庭農園の充実										
	観光客が訪れたときに利用できる飲食店や駐車場、宿泊施設等が少ない。 観光客に対して観光に関する情報が伝わっていない。 行政や関係組織が情報を共有していない。	観光客が行田市をゆっくり楽しむことができるような、環境整備が必要。	自転車で行けるまちづくりを進める。 観光客が訪れたくなる施設・環境を整備する。 観光客に分かりやすい案内やガイドを充実させる。	サイクリングロードの整備・観光ルートのカラーペイント 行田ブランドが全て揃っている物産館の整備 飲食店等の前の休憩所やベンチ等の充実 ガイドボランティア(説明ボランティア)の結成 観光資源を活用した定期的なイベント(桜めぐり、古墳や足袋蔵等の日本史めぐり)										
		行政や関係機関が連携して、活気あるまちづくりへの取り組みを進めることが必要。	観光に関するPRを強化する。	行田市の「忍城市」への改名 駅名の「JR忍城駅」「秩父鉄道 忍城市駅」への改名 観光協会をトップとした体制の見直し・一元化 ホームページやパンフレットの見直しと充実 様々な媒体を活用した情報発信の強化(行田の祭りを全国にPR。例えば「手帳」に行田のお祭りを掲載してもらう)	・早めに提案・問題提起をする！(映画のぼうの城がPRするタイミング) ・観光協会へ民間人を活用・投入・観光をテーマに関係団体(例えばお祭りの主催者)が集まり組織をつくる									
観光に対する市民意識	観光に対する市民の関心が低い。 観光客に聞かれたときに答えられない人が多い。	市民一人ひとりが、観光客を迎えるおもてなし意識を持ち、市全体で観光まちづくりに取り組むことが必要。	小中学生に行田の魅力を伝え、愛着を育てていく。	小中学生を対象とした「行田の魅力」を伝える講習の実施										

色の枠の項目は役割分担や実施時期は未検討。(重点的な取り組みのみ検討)